

パブリックコメント手続の実施結果及び意見への対応（案）について

1 案件名

平塚市立小学校及び中学校適正規模等基本方針（素案）

2 案件の概要

「平塚市立小学校及び中学校適正規模等基本方針」は、児童・生徒数の減少と学校施設の老朽化が進む中、2040年以降の社会を見据え、様々な社会情勢の変化にも子どもたちが柔軟に対応し、新しい時代の学びに効果的に取り組めるよう、「未来の礎を築く学校づくり」を目指して策定するもので、このたび、市民からの意見を募集しました。

3 募集概要

（1）意見の募集期間

令和7年11月7日（金）から令和7年12月8日（月）まで

（2）意見の提出方法

郵送、ファクス、直接持参、電子メール、電子申請システム

4 実施結果

個人から	7人	10件
団体から	0団体	0件
合計	7人・団体	10件

5 意見への対応（案） 意見の詳細は、「資料1-2」を御参照ください。

項目	説明	件数
ア：反映	意見を受けて計画案等を修正したもの 意見の趣旨が計画案等に沿ったもの	10
イ：参考	事業・取組を推進する上で参考とするもの	0
ウ：その他	意見募集の範囲と異なるもの、反映が困難なもの、質問など	0
合計		10

以上

平塚市立小学校及び中学校適正規模等基本方針（素案）に係る意見及び意見への対応（案）

番号	項目	市民意見の概要	市の考え方	対応区分
1	第2章	平塚で生まれ育ち、結婚出産後も平塚に住み続けています。現在子どもが小学校に通っています。子どもが通っている小学校の校舎は老朽化が進んでいると思います。子どもの数が減っていく社会でも、教育にかける予算は減らさず、子ども達が快適に学校生活をおくことができるような学校を整備してもらいたいと思います。また、予算がない中でも子どもたちが楽しく、快適に過ごせるように学校を建て替えることも考えてほしいと思っています。	建て替えを含む適正規模・適正配置の具体的な取組については、基本方針や3つの視点を踏まえ、地域特性を考慮して慎重に検討していきます。 また、御意見のとおり、児童・生徒が安心・安全で快適に過ごすことができる教育環境の充実の観点を中心に据え、子ども中心の学びの環境整備を目指していきます。	ア：反映
2	第3章	新聞やテレビで中学校の部活の数が減っていることをよく目にする。入りたい部活がなく、活動を断念している子どもがいると思います。部活をしたい子どもたちが、やりたい部活に入れるようにしてあげたい。	基本方針では、学校規模の違いによるメリット・デメリットを踏まえ、「活動に応じて少人数から大人数まで、様々な規模のグループを作り、多様な教育活動を展開する必要があることから、一定の児童・生徒数が確保されて」いることが望ましいことを記載しました。中学校部活動を含めて、子どもたちが笑顔で学校生活を送ることができる教育環境の充実を目指していきます。	ア：反映
3	第3章	学校は、子どもたちが楽しく通える場所であってほしい。楽しく勉強し、友達と遊び、おいしい給食を食べるなど、元気に成長できるようにしてもらいたい。学校給食センターができて、中学校でも給食が提供されたことは評価できる。教育はとても大切なことだから、予算をしっかり配分して、子どもたちのためになることを考えてもらいたい。	将来にわたり子どもたちが笑顔で学校生活を送ることができる教育環境の充実により、「未来の礎を築く学校づくり」を推進します。 児童・生徒が安心・安全で快適に過ごすことができる教育環境の充実の観点を中心に据え、子ども中心の学びの環境整備を目指していきます。	ア：反映
4	第3章	先生の長時間勤務・クレーム対応・採用試験の倍率低下などが問題になっています。カスタマーハラスメント対策の取り組みが進められているので、先生たちの働き方改革についても合わせての検討を望みます。	基本方針では、検討委員会での意見を踏まえ、「子どもを中心に据えて、学校・家庭・地域の連携」を念頭に、「教職員のウェルビーイングの向上」と表現しました。御意見のとおり教職員の働き方改革は重要であると認識しており、取組をとおして、児童・生徒に接する時間を十分に確保できるよう支援していきます。	ア：反映

番号	項目	市民意見の概要	市の考え方	対応区分
5	第3章	少子化が進む中、学校の統廃合を進めることは理解できる部分もあるが、学校は地域のシンボルとなる場所だと考える。平塚においても学校の再編を進める考え方があるのだとは思うが、地域住民の声を聞かずには拙速に事業を推し進めることには反対する。近年の地震、台風など、災害発生時の避難場所としての役割も持っていることから、縮小ばかりに目を向けていてはならない。子どもの学びの場所を充実する視点と地域のシンボルとしての視点をバランスよく考えてもらいたい。	本市の人口推移や将来の更新費用等を勘案すると学校施設を現在の規模で保有し続けることは非常に厳しいことから、延床面積の総量縮減や質的向上等を目指す必要があります。一方で、3つの視点の1つとして「地域との関わりの視点」を掲げ、学校は地域コミュニティの核であり、学校運営は地域の力なくして対応が困難なことから、学校・家庭・地域との連携・協力を推進するとともに、協議を十分に重ね、地域の意見も取り入れながら丁寧に取組を進めます。	ア：反映
6	第3章	望ましい学級数の目安が示されていますが、私の住む土屋地区では、若者の地域離れにより少子高齢化が進行しており、神奈川大学跡地活用についても進展するどころか後退してしまい、消滅可能性地域となっています。とてもではありませんが、望ましい学級数の目安に達することはなく、第一の優先検討校に挙がってしまい、統廃合についての話しが出ることは確実です。 しかしながら、学校が地域の文化やコミュニティの中心となり、地域ぐるみで子育てに取り組んできました。学校の廃止・移転が地域コミュニティの衰退につながり、本当に学校の問題だけでは済まなくなります。 学級数や通学時間・距離で判断するのではなく、もっと地域の実情を地域の人たちから直接聞く取組なども明記していただきたいと思います	適正規模・適正配置の具体的な取組については、基本方針や3つの視点を踏まえ、地域特性を考慮して慎重に検討していきます。 3つの視点の1つとして「地域との関わりの視点」を掲げ、学校は地域コミュニティの核であり、学校運営は地域の力なくして対応が困難なことから、学校・家庭・地域との連携・協力を推進するとともに、協議を十分に重ね、地域の意見も取り入れながら丁寧に取組を進めます。 望ましい学級数・配置・通学の目安を示していますが、留意点として保護者・教職員・市民アンケートの結果や国の動向や学校・地域ごとの実情を踏まえて弾力的に運用することなどを留意点としています。 具体的な進め方は、今後検討することになりますが、説明会・意見交換会やアンケート等の様々な機会を設け、学校や地域とともに学校運営上の課題について議論しながら、地域における合意形成を図るなど、丁寧かつ慎重に検討します。	ア：反映
7	第3章	【タブレットを使った環境】 自分たちが子どもの頃とは違い、タブレットを使った授業が行われていると聞きます。また、プログラミング教育など、昔では考えられない授業が実施されています。タブレットを使うなどの新たな授業内容が学びやすい環境を整えることで、子ども達のスキルアップに繋がると思います。	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る「令和の日本型学校教育」の実現やタブレット端末やデジタル教科書など、授業におけるＩＣＴの活用により、子ども中心の学びの環境整備を目指します。	ア：反映
8	その他	【2040年を見据えた改修及び統廃合について】娘が90周年を迎えた富士見小学校に通っています。施設の老朽化を改修していく点ですが、現状、トイレのほとんどが和式で休み時間に洋式に長蛇の列になるようです。間に合わなくて漏らしてしまう子どもがいると娘から聞いています。今通っている子どもが安心して通うことができない状態にあると思います。統廃合や改修をするにしても、少なくともトイレに関しては、どの学校も今いる子どもの安心、安全のために早急に改修をしていただきたいです。	御意見のとおり「子どもの安心・安全」は重要であると捉えていることから、適正規模・適正配置の検討は、児童・生徒が安心・安全で快適に過ごすことができる教育環境の充実の観点を中心に据えています。3つの視点の1つとして「学校施設の最適化の視点」を掲げ、トイレの洋式化、空調の整備、バリアフリー化などの、安全衛生と快適性の向上を目指します。	ア：反映

番号	項目	市民意見の概要	市の考え方	対応区分
9	その他	<p>平塚市は、温かな気候・豊かな自然・温かい人のつながりを魅力としており、教育面でも商業・工業・農業・水産業がバランスよく共存する地域特性を活かし、地域と学校が連携した取り組みを推進していることを大変心強く感じています。こうした中、今後AIの発達により都市機能と自然が両立する住環境の価値が高まっていく社会において、土屋地区は子どもの成長や家庭の暮らしにとって非常に魅力のある地域だと考えています。この地域の環境は、「学校・家庭・地域・行政が協働して子どもを育てる」という奏プランの理念を実現できる土壤そのものです。</p> <p>一方で、「適正規模・適正配置」の検討の中でも明記されている通り、学校は地域の拠点であり、防災・保育・交流など多面的な役割を担っています。地域に根付いた学校がなくなることは教育環境の問題だけでなく、地域コミュニティの崩壊、さらには過疎化の加速につながる懸念があります。</p> <p>基本方針には「地理条件等の特別な事情がある地域の場合は、それぞれの地域の実情を踏まえ、学校のよさを活かすための方策を検討する」ことが記されています。土屋地区の学校もまさにこの観点から、維持・活用を前提とした検討を進めていただきたいと考えます。</p> <p>平塚市が掲げる「子どもたちの心に『ひらつか』という故郷をつくり、地域社会をけん引し、貢献できる人づくり」は、地域の人たちが学校を中心として協働する文化がある土屋地区だからこそ実現できるものです。土屋地域の学校が、地域の核として存続し、その特性を活かした教育が継続されることを強く望みます。</p>	<p>適正規模・適正配置の具体的な取組については、基本方針や3つの視点を踏まえ、地域特性を考慮して慎重に検討していきます。</p> <p>3つの視点の1つとして「地域との関わりの視点」を掲げ、学校は地域コミュニティの核であり、学校運営は地域の力なくして対応が困難なことから、学校・家庭・地域との連携・協力を推進するとともに、協議を十分に重ね、地域の意見も取り入れながら丁寧に取組を進めます。</p> <p>なお、御意見のとおり、地理条件等の特別な事情がある場合には、その学校の良い点を最大限にいかす方策や課題の解消に向けた解決策について、地域特性を考慮して検討していくことも重要だと考えています。</p>	ア：反映
10	その他	<p>平塚市の郊外に位置する地区では、人口減少と児童・生徒数の減少が今後見通されるとされていますが、来年度から小規模特認校となる土屋小学校のように、豊かな自然環境や地域のつながりを生かした教育を望む家庭は一定数おり、我が家もその一例です。</p> <p>先日の土屋小学校の特認校見学会では、多くの参加があり、この地域ならではの教育環境への関心の高さを実感しました。これは、土屋小学校が持つ教育的特性が、今後の教育施策においても価値あるものとして認識され得ることを示しているように感じています。</p> <p>適正配置は財政面や効率化の観点だけでなく、地域ごとに異なる教育環境の特性をどのように将来へ継承していくかという点も重要だと考えます。土屋小学校の自然環境や地域との協力体制は、子どもたちに特色ある学びを提供しており、単なる学校規模の大小では測れない要素を持っています。</p> <p>また、豊かな自然や地域の営みを体験的に学べる環境は、教室内だけでは得にくい学びを補っていると考えます。近年はデジタル化やAI技術の進展が進むことから、自然の中での体験や人との関わりは、子どもたちの成長を支えるうえで相対的に重要性が増す可能性もあると感じています。</p> <p>さらに、このような教育環境は平塚市が掲げる「平塚を故郷と感じられる教育」の方針とも合致しています。地域の自然・人・文化に日常的に触れられる環境は、子どもたちが「平塚を自分の故郷」と感じ、地域への愛着を育む基盤になると思います。土屋地区には「子は宝」という地域文化も根付いており、こうした地域との深いつながりは、市が目指す教育の好例になり得ると考えています。</p> <p>一方で、人口減少を背景に学校の集約や統合を検討するのであれば、まずは地域に人が戻りやすい環境づくりを並行して進めることも重要だと考えます。特認校制の教育移住は、子育て世帯の定住・転入を促す可能性があり、結果として平塚市全体のメリットにつながると感じています。学校の適正配置はまちづくりの一部である以上、「人が増える地域づくり」とあわせて議論されることが、未来の平塚のために必要ではないかと思います。</p> <p>今回の土屋小学校の特認校見学会が盛況だった現状も踏まえ、この地域ならではの教育環境が将来にわたって生かされるよう、適正配置の検討にぜひ反映していただければ幸いです。</p>	<p>適正規模・適正配置の具体的な取組については、基本方針や3つの視点を踏まえ、地域特性を考慮して慎重に検討していきます。</p> <p>3つの視点の1つとして「地域との関わりの視点」を掲げ、学校は地域コミュニティの核であり、学校運営は地域の力なくして対応が困難なことから、学校・家庭・地域との連携・協力を推進するとともに、協議を十分に重ね、地域の意見も取り入れながら丁寧に取組を進めます。</p> <p>また、御意見のとおり、地理条件等の特別な事情がある場合には、その学校の良い点を最大限にいかす方策や課題の解消に向けた解決策について、地域特性を考慮して検討していくことも重要だと考えています。</p> <p>さらに、学校と地域は密接に繋がっており、学校の規模や配置を検討する上では、地域づくりやまちづくりの観点が必要であると捉えていることから、総合計画に明記されたまちづくりの基本姿勢の考え方を適用しています。</p>	ア：反映